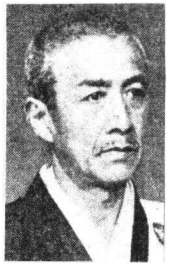
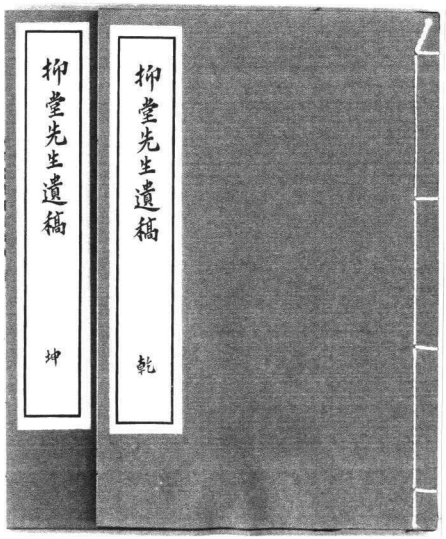
佐々木抑堂（よくどう）　儒僧。嘉永二年一月十一日伊勢國津生れ、明治四十二年十二月十日没（一八五〇―一九〇九）。講狂介、字希賢、幼名清丸。別號地獄坊、大阿房、無漸等。眞宗光蓮寺住職佐々木教成の次子。六歳にして土井整斎（せいさい）の門に入り儒學を學び、更に父に就き經典を學ぶ。明治二年上京、島地默雷、原坦山、福田行誡等の下（もと）禪學を研鑽。十年新潟學校漢學教師、十五年三重縣師範學校漢文教授、また尚友義塾を開き來學者數百人に及ぶ。十九年福澤諭吉來津の際その説を聽いて感奮、翌年上京して同人社に入り英學を修めた。尋（つい）で學友を介して諭吉に知られ、慶應義塾漢文科講師に擧げらる。四年後繼然悟る所あって職を辭し、一意佛教に肇（おこ）ふ。西本願寺編輯部に入り「本山歴代記」を編纂、また大學林で佛書を講じた。のち香川に赴き鹽屋別院管事、富山に轉じて別院管理。二十五年歸郷後、時に畿甸、四國、北陸に巡錫、布教傳道に當った。晩年は自坊光蓮寺に住して著述に從事。

著書に『相武天皇と寶祚敬考』（明治二十八年四月八日京都・永田長左衛門等八書肆刊）、『篤學院佐々木狂介師遺文集』（昭和六年六月一日北海道・野口吉三郎編）、『抑堂先生遺稿』全二冊（昭和八年十月二十日樂天堂）等。